

## 「中国たたき」に警鐘

温室効果ガス排出の急増や越境大気汚染などで、中国に対する風当たりが強い。だが、米サ



ラ・ローレンス大のジョシュア・モルドヴァン教授＝写真＝は、安易な「中国バッシング」に警鐘を鳴らす。「持続不可能な発展モデルを中国に持ち込み、安い製品を買って恩恵を得ている。先進国や多国籍企業は共犯者です」

変容する中国の環境や日本からの援助の影響などについて、現地で長年にわたって調査研究してい

る。「中国には温暖化防止へのとても強い気持ちがあるし、様々な議論が交わされている。国際交渉での主張がすべてではない」と強調する。

「アジアの給水塔」であるヒマラヤの氷河の減少は、黄河の枯渇など中国だけで数億人の水不足に影響するとされる。中国政府も環境汚染が死因の大きな部分であることを認めるようになった。だが、その一方で経済発展にブレーキがかかれば、失業者があふれ社会が不安定化するというジレンマに悩んでいる。

「米国の輸入品の3分の1は中国からだ。大量の二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を排出した安い製品が日本や米国に運ばれている。中国を非

難しても問題解決にはつながらない。不平等な生産、分配、消費の国際的なシステムこそ、変えていかなければならない」